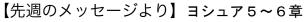
2009年7月19日

へかまれます マナ 058

週報 954 付録



~ エリコの城壁が崩れる時 ~

● 角笛と神の箱が先頭に進んだ=ご臨在と御言葉

毎朝角笛を吹き鳴らす祭司たちを先頭にし、次に神の箱が進み、さらにイスラエルの兵士たちがエリコの城壁を一回ずつ巡った。これは神の臨在(神がここにおられる)と神の御言葉(契約の箱の中身は十戒の板)の優先性と受け取ることができる。私たちの生活の中で常に神のご臨在を意識し、神の御言葉に先立ってもらうなら、あらゆる領域で勝利し、敗北することはない。

●民は黙って行進した=デボーション

角笛が鳴り、契約の箱が進む間、6日の間、民は一言もしゃべってはいけなかった。ここからは日々の生活において、まずは黙って神の御言葉に耳を傾けることの大切さを学べる。自分の浅はかな考えや、悟りのなさを自覚し、神が語ることに抗議をする前にまず黙って聞く!これは即、デボーションの習慣を身に付けることに他ならない。

●7日目の陥落=神が定めた時に御業が起きる

神の御業は早過ぎることもなく、遅過ぎることもない。ちょうどよい時、定められた時に起きる。私たちは自分の願った時に御業を願い、そうでないといらだったり失望したりするが、「神の時」を期待し、受け入れる信仰を養いたい。

●聖絶のものには手を出さない=罪との関わりを断つ訓練

神はエリコの町を聖絶することを要求された。それはエリコの人々の

あらゆる習慣、偶像崇拝や堕落した道徳と関わってはならないことを意味した。私たちも救われた者として、この世に生き続けつつも、罪との関係を断つのである。私たちの生活の中に神が願われない物があるだろうか。聖絶の物を取り除くことを徹底しよう。■



【今週の英語】Adrian Rogers "Adrianisms"より

Sin is not just breaking God's laws; it is breaking His heart.

罪は単に神の律法を犯すことだけではない。罪は神に深い悲しみを与えるのである。

【今週の暗唱聖句】 [ヨハネ1:9]

- もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですか ら、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。
- ★イエス様を救い主として受け入れ、罪赦された者とされても、なおも罪を犯し続けてしまうし、犯し続けることができてしまうという現実に最初、失望する人がいるかもしれませんが、この現実を基本から理解し直すことが必要です。実は人は罪(自己中心)と戦う中で人格が整えられるのです。
- ★まずしっかり心に刻みましょう。人が犯す最大の罪は、神を無視し、神と関係なく生きようとすることです。イエスさまを信じて神の赦しと救いを受け入れ、神の子供とされた者はこの最大の問題が解決し、神との関係が修復されたのです。放蕩息子にたとえるなら、クリスチャンは家出状態ではなくなり、家に戻ってきて、再び家に住むことが許されている状態になったのと同じなのです。もはや追い出される心配をする必要はないのです。
- ★ところが、私たちにはかつての生き方から来る悪い癖、罪深い考えや行動が染み付いており、それらは神様の心を悲しませるものです。ですから、その罪と向き合って一つ一つ、対処していくことが求められているのです。誠実に自分の罪に取り組む者には、必ず勝利の日がやって来ます。
- ★さて、「ごめんなさい」と神様に対する心からの後悔の感情と、「私は~~という罪をあなたの前で、(また、誰々に対して)犯しました」と事実を認めることとは異なります。涙をもってごめんなさい、と主に告白する「砕かれた、悔いた心」を決して、主はないがしろにされません。しかし罪を離れる生き方に進むためには、「罪を言い表す」という主の命令に従わなければなりません。「言い表す」とは「事実を認める」という理性的、意志的なステップをキチンと踏むと言うことなのです。罪に名前を付けるのです。
- ★そしてその罪を捨てること。何度でも捨てましょう。私たちの体には罪の 雑草の種がたくさん落ちていて、次々と芽が出てくるものです。敗北もあり ながらも罪と戦うなかで、罪の再生産のサイクルを断ち切って行くのです。
- ★最後に、赦しの確信のあるなしは、他人を赦せるか否かで表面化します。 赦しがたい事件を経験した場合、感情まで癒されるには時間がかかります。 しかし、7の70倍の原則(マタイ18章)を聞かされているクリスチャンは 相手を赦すことを主から求められています。相手を赦したくないために逃げ る人は、その段階で成長が止まるだけではなく、信仰における退行が始まり ます。しかし、他者に対する赦しを宣言し、過去の痛みがよみがえって来て も「もうあの人は赦しました。主よ、私の感情を癒してください。」と心に 語り続ける人には確実に癒しと解放が与えられるのです。■